

3 委員会が視察 「見たこと・聞いたこと、そして考えたこと」

災害時のごみをどうするか ～東松山市廃棄物対策課を訪ねて～

総務常任委員会
10月17日 埼玉県東松山市

東松山市南部の地域は、元年10月12日に発生した台風第19号により甚大な浸水被害を受けた。被災によって生じた災害廃棄物の処理の経過とその後の取組について、同市環境産業部廃棄物対策課から説明を受けた。



同市では、被災の約半年前の平成31年3月に災害廃棄物処理計画を策定していた。

本市では、2年3月に同計画を策定しているが、現在見直しを行っている地域防災計画と合わせて、今一度、内容の検証を行ってはどうか。

今回の視察で学んだ事前の備えのポイントは、次の3点である。

一つ目として、ハザードマップを活用し、仮

置場にふさわしい場所を事前に選定しておくことである。

二つ目として、市内企業等の各種団体とあらかじめ協定を締結し、被災時に速やかに人的・物的支援を得られる体制を構築しておくことである。

三つ目として、冷蔵庫の中身を始め、可能な限り粗分別をした上で仮置場に搬入することや、あらびんべつ 廃棄物の悪臭や火災の危険性を平時から市民に啓発しておく必要性である。

最後に、東松山市議会では、災害当時、被災地域を巡回し、支援物資の配布や災害廃棄物の搬出の手伝い等を行った。その後、災害対策特別委員会を設置し、市議会業務継続計画の策定等を行った。本市議会でも、災害時の対応等について、全議員で日頃から検討・協議しておく必要があると感じた。

中学校4校を1校に統合(高畠町) 特色ある小規模特認校の成功例(水戸市)

文教厚生常任委員会
10月23日 山形県東置賜郡高畠町
10月24日 茨城県水戸市

学校教育の在り方について、山形県東置賜郡高畠町及び茨城県水戸市を視察した。



高畠町では、将来の人口減少を予測し、平成18年11月から学校経営計画策定検討委員会による再編統合の検討を開始し、平成20年には1校又は2校への統合案を打ち出した。その後、平成21年2月から22年11月まで、町民への説明会を延べ154回開催し、2,716人が参加した。町民の意見や要望に対し、時間を掛け丁寧に説明し保護者や住民からの課題に対応していくことで1校統合への理解が得られ、平成28年4月に高畠中学校が開校した。大学並みに施設が整備された校舎で生徒たちは伸び伸びと学校

生活を送っており、統合の成果を感じ取れた。成功の要因は、少子化による学校統廃合の課題に向き合い早々に対応したことや、保護者や住民に細かく丁寧に意見を求める場を数多く持ったことと考える。

本市においても学校の配置など子どもたちの学びと健全な成長を一番に考え、適した環境が整備されるよう期待し、注視していきたい。

水戸市では、小中学校の9年間を一体化させて行う義務教育学校を1校、豊かな自然環境の中で特色ある教育活動や少人数によるきめ細かな指導を行う小規模特認校を3校運営しており、来年度には小規模特認校が1校新たに開校する予定である。国田義務教育学校では、施設一体型小中一貫教育校として、前期課程(小学校)及び後期課程(中学校)の9年間を見据えた系統性のある教育課程

を編制し、専門性を生かした教科担任制や学習内容の先取り、6年生における早期部活動など特色ある教育を行っている。3校ある小規模特認校は、理科・環境教育、学校体育・保健安全教育、ICTを活用した教育をそれぞれ特色としており、地域住民と連携して行う授業や地域行事への参加を通して地域への愛着の醸成にもつながっているが、

特色を打ち出すことや特色が薄まらないようにすることが課題であった。本市における小中一貫校への考え方や小規模特認校の成功例を参考に活用していきたい。



新たな農業経営の挑戦 ～(株)サラダボウル アグリサイトを視察して～

産業建設常任委員会
11月6日 山梨県北杜市
(株)サラダボウル アグリサイト

山梨県北杜市に所在する農業法人(株)サラダボウルのアグリサイト(ガラスハウス農場)を訪問し、同社における農業経営について田中進代表取締役等から説明を受けた。



同社は、2004年4月の創業から「新しい農業のカタチ」を模索するとともに、DXなどにも積極的に取り組み、現在では一般的な農業経営と比べ、5倍以上の収益性を誇る経営に至っている。温度管理を行った水耕栽培により、年間一定の収穫が期待でき、販売についても特定のスーパーマーケットと契約を結んでいる。

また、システムチックな経営手法(従業員が

しゃがまない・動かない・重い荷物を持たないという従来の農業作業を改革したことと、収穫量の予測ができるようにしたこと)で、革新的な農業を行っている。6年度以降に、本市に整備予定の農場は、基本的に当地に生産法人を立ち上げる同社の企業方針からも、本市に財政・雇用両面で非常に有益なものになると期待する。

しかし、本市の未来の農業を考える上で、同社の農業経営は、市の地域産業を再構築する際の一つのアイテムとしては考えられるが、地域の課題解決に直結する特効薬になるとは考えにくい。

加えて、市内では農業振興地域が多く、耕作放棄地が徐々に増えている現状をどうするか。市の大きな課題である。本市議会も単にそれらを見ているだけでなく、様々な提案をすべきと考える。

議場コンサート 12月5日(火)

より多くの市民の皆様と議場に足を運んでもらい、市議会を身近に感じてもらうことを目的に、5年半ぶりに議場コンサートを開催しました。

演奏団体のひだまりコンサートが全6曲(「タンゴ『灯』」、「芭蕉布」、「昂」、「アニーローリー」、「水色のフルツ」、「津軽海峡冬景色」)を演奏し、フルートとハーモニカの音色で80人ほどの皆様にお楽しみいただきました。

一般質問の2日目、真剣な議論を行っていた議場が、心温まる演奏で和やかになりました。

皆様に議場に親しんでもらえるよう、今後も開催しますので、足をお運びいただければ幸いです。

